

弓道ながの

第21号

発行：長野県弓道連盟
会長 山川茂樹
〒396-0021
伊那市大字伊那3919-3
TEL0265(72)3060
編集：県弓連広報部
印刷：中央堂印刷社

会長就任にあたって



長野県弓道連盟会長 山川 茂樹

にしなればなりません。

19年度評議員会において県弓連会長に推挙され、改めてその責任の重大さを痛感しているところであります。

もとより未熟でその器ではありませんが、その職務を果たすべく一生懸命努力する覚悟でございますので、会員皆様の絶大なるご協力をお願いいたします。

先輩諸先生方のご指導で、「弓道長野」の伝統が脈々と受け継がれてまいりました。私たちはこの伝統を絶やすことなくより大きく発展させ、次の世代に引き継ぐ責任を課せられております。そのためには県弓連の活動をより活発

にしなればなりません。幸い総会において19年度の事業計画が承認されました。講習会、研修会、審査会、競技会など盛り沢山の行事が計画されています。そして先頭に立つて運営する強力な新役員、各事業部員が選任されました。

そして2月18日は事業部会を開催し、各事業部を確認し更に肉付けをして力強く推進に向けて第一歩を踏み出すことができました。会員皆様の積極的な事業への参画により、県弓連の活動がより充実したものになることと思っております。

近年高校生の活躍で面目は保っていますが、一般の成績は低迷しています。職場や地域は厳しい現状ではあります。厳しい現実には長野県だけではあり

URL

長野県弓道連盟
ホームページ
<http://kyuren.cool.ne.jp>
Email:kenkyuren@yahoo.co.jp

ません。厳しさを乗り越えて修練に励むことにより選手権大会や国体、審査に成果を挙げることが出来ます。

そのためには、精神的にも技術的にも一層の向上を図らなければなりません。各事業部の計画した講習会や競技会に積極的に参加し、技術の向上と基本動作の修練に励み、正しい弓道の習得に努めることが大切です。また指導部の指導目標により若手の指導育成に努め、県弓連の総合的な力の向上を図っていくことが急務であります。

4月には国際弓連の設立記念大会が開催され、古来から伝承されてきた弓道が国際的に大きく飛躍する年であります。本大会の成功を祈念するともに、県弓連の発展に力を尽くす覚悟でございます。

会員の皆様の一層のご支援ご協力を心からお願い申し上げます。就任の挨拶といたします。

二二二二二

平成19年度

県弓連評議員会報告

事務局長 北村 弥昌

二二二二二

1月28日長野第一ホテルにおいて、平成19年度評議員会(規約改正により評議員会)が開催され、次に掲げる議題について報告、審議が行われ承認された。

1. 平成18年度事業報告
2. 平成18年度決算報告
3. 会計監査報告
4. 平成19年度事業計画(案)





- 5. 平成19年度予算(案)
 - 6. 規約改正
 - 7. 役員改選
- 各部事業計画、予算、規約、新役員については、長野県弓道連盟事業計画書をご覧ください。
- 特記すべきことは、中央審査ではID化されているが、地方審査においては遅れているので、推進するための検討委員会を設置したい。
- また、県弓連の会計方式を検討する委員会組織を設置したい。
- なお、建設工事が進んでいる松本市弓道場が、平成20年4月利用可能となることから、20年度開催の中日本女子大会を松本で開催するための視察者(岐阜大会)を派遣したい。以上

総務部

総務部長として

理事長・総務部長 外園 公毅

恐れ多くも理事長を拝命し、総務部長も仰せつかったわけですが、長年団体と強化部に関わってきたので、すっかり現場人間になってしまったので理事長、総務部長になってどうやってリードしていかが正直分かりません。

やっと少しずつ頭の中で整理し始めた所です。長野県弓道連盟として理事長とはどういう立場なのか、何を期待されているのか規約の理事長の職務だけを読んでよく分かりません。

他の組織でも県弓連の理事長と同じ職務とはどんなものか、組合や政党でいう書記長、幹事長と同じという人がいるが、そうだとすると結構偉い立場なんだなと思うが、今までの県弓連の理事長は果たしてどのような動きをされていたか、ここ10年を見ているがよく分かりません。

今言えることは、会長の方針に沿って各事業部が機能的に有機的に活動できるように支援するのが総務部、理事長の役目かなと思います。一年は流れ

指導部

受講生の満足度を高めたい

指導部長 土川 俊市

長野県弓道連盟は新体制でスタートいたしました。指導部としては毎年会員の皆さん方のお役に立てばと講習会や研修会が計画され、多くの参加を頂いて実施して参りました。

ところで参加される方々はそれぞれの問題意識を持って受講し、講師の先生のご指導を頂き更に前進する糧としております。

しかし、受講される方々の層による問題意識も広くなり講習効果の満足度も薄くなりがちとなるのではないかとことから、今回は五段以上を受講の対象として開く、春季・秋季の講習会を五段と五段錬士のグループと六段錬士以上のグループに分けて開催することで意識の多少は集約ができるのではないかと思いました。

県下を東・北信地区と中・南信地区に分けての会場でお集まり頂くのに、不便をおかけいたしますが、春季と秋季の会場を交互にするなど公平さを工夫しご理解を頂きます。

また、事業計画にある強化指定選手

の指定と研修を実施いたします。

このことは何を目的とするか、県弓連としての対外的な効果を上げること

にのみあるのではなく、ここでの取り組みは、少人数で技量を競い合い(切磋琢磨)進歩することを狙うものであり、そのことをうけて県下に影響し良い現象が現れればと考えております。

つまり県弓連指導部が計画・お膳立てする講習会・研究会のみに頼らず仲間や地域などのいるいろいろなグループで勉強会的な別の稽古の機会が開かれんことを望みます。

勉強会などを開くに講師の斡旋の要請には積極的に対応いたします。

伝達講習会にも引き続き多数のご参加をお願いします。



競技部

御協力を頂きながら全力で

競技部長 大蔵 務

1月28日に開催された県弓連役員総会に於て、常任理事と競技部長という大役を仰せつかりました。

今までも競技部には、部員として在籍はしていたものの総べて前任競技部長の清水先生に、おまかせのおんぶにだっこ式、振り返って見れば満足に競技部員としての仕事をしていなかった様に思います。

元より力が有るわけではない私に果してこの大役を無事にこなし切ることが出来るだろうか、不安がのしかかって来て足が震える思いです。

幸いにして県弓連副会長の清水先生が競技部に在任して頂いた事と、有能な方々の競技部への推薦もあり強力な競技部の構成をしていただき安堵しているところです。

競技部の運営に当っては、部員一同の協力は勿論のこと、各地区の支部長さんや、会員の皆様のお力添えを頂きながら事業計画の実施を図って参りたいと思っております。

18年度までは、競技部が主管する全日本県予選 勤労者大会等を含めた五つの大会運営でしたが、19年度の事業計画では、新たに北信越連合選手権予選会が設けられ六回の大会運営となりました。

大きな大会が増え、会員の皆さんがより多く参加することにより、長野県の競技力の向上や県弓連の発展にも繋がろうかと思えます。

是非多くの方々の参加をお願いして大会を盛り上げてほしいと思います。

詳しい大会日程や要項は、19年度県弓連事業計画に掲載されています。

競技部一同一丸となり事業計画の実行に邁進して参りますので会員の皆様の更なるご協力、お力添えをお願いいたします。

審査部

ID活用の審査会に

審査部長 降旗 昭雄

平成19年度の審査会は二段以下9回、四段以下4回の計13回を予定しています。審査は日頃の修練を評価してもらう絶好の機会ですので、多数の方が参加されるよう希望します。

審査というと実技の方に目が行きがちですが、学科もまた重要な審査対象です。事前講習会などで学科問題の出題範囲、傾向などを知ることも出来まので、日頃練習の機会の少ない体配を含めて講師の先生から指導を受けることをお勧めします。

本年の審査部の課題は会員管理システム(ID)の活用です。IDシステムは数年前から導入され、全国レベルでは既に中央審査などでは活用されております。しかし残念ながら本県では県内審査には利用されていないのが実情です。これは高校生を含めた新規登録および修正の数が多く、登録作業が遅れた為で早急に対策を講じて、IDを利用した審査事務を行いたいと考えています。このほどID検討委員会が設置され、2月末の初会合で現状認識と実際にパソコンを使用しての審査資料作成の模擬テストを行いました。その結果、非常に利便性に富んだシステムであることとを実感し、これを活用すべきであるとの全員の一致した意見でした。データ1の完備を待って、8月下旬の北信四段以下審査会を初のIDを活用した審査事務処理にすべく計画しています。

その結果を検討、修正を加え以降の審査会は全てIDを導入して行きたいと考えています。

強化部

成年男女の更なる活躍を

強化部長 北嶋 晋

今から6、7年前になりますが、富山県国体の時に、公衆浴場で外園先生とシャンプーしながら長野県の現状を憂いておりました。「とにかく若手が続かない」「若手の育成が急務だ」。その年に外園部長が強化部長になられ、自分も部員となりました。それから現在まで「若手の育成」に重点を置いた強化練習に務めてきました。

この6年間の戦績は、少年男子が近の入賞1回、遠の入賞2回。少年女子が近の入賞1回、遠の入賞3回。成年男子が遠の入賞1回。成年女子が近の入賞1回、遠の入賞2回となります。

昨年は、待望の少年女子近似的優勝の快挙がありました。強化練習の賜物だと思えますし、選手の意識向上もあると思えます。

一方、成年男女については、当初の「若手育成」に関し、やっと兆しが見え始めた段階です。現実面では、「弓道王国長野」はもはや過去のものとなりました。北信越を勝つて本国体へ進出するのは至難の業と言っても過言ではありません。ただ、他の4県も「若手の育成」に関しては同じ問題を抱えていることも事実です。辛抱しながら、開花を期待して、ひたすら待つのみです。

昨年の国体で、ある県の少年男子の射法が話題になりました。引き方がいわゆるアーチェリー射法で、矢束を極端にとらず、妻手が頬に付く位に引いていました。ルールには触れない範囲の射法ですが、武道としての弓道からすると極めて「いさぎよくない」射法だと言えます。北信越の他の県の監督さんとの話の中で、ある県の監督さんは「あの射法でも中たればうちの県は選手にする」と言いました。その方に対し「長野県は絶対選手にはしない」と答えておきました。それが我が県の基本方針だと言えましょ。国体選手

は弓道のスペシャリストです。遠近両方に精通し、基本に忠実な射が行える選手でなければいけません。「中ればいいだろう」と言う傍若無人な自己流弓道ではいけません。

最後に、偉大な強化部長の外園先生の後を引き継ぐには駒不足な自分ではありませんが、今までの指導理念を継承してやっていきたいと思えます。ご支援よろしくお願ひします。

ジュニア部

再度ジュニア部長に

ジュニア部長 古澤 金蔵

県連ジュニア部は、昨年より中学生大会の担当にもなり、中学校の先生にも加わっていただきました。征矢副会長を中心に、部員7名で組織しています。18年度は幸いにも、県内中・高校生は、各種のビッグ大会で大活躍をしてくれました。しかし、すべては女子の大活躍であり、男子の成績は、全く振るわず、目立ったことは、高校生弓道部員数の増加のみでした。ここ数年間、高校男子の県外大会における成績は、ほぼ最下位に近い成績で、大変に寂しい結果に終わっています。

心の面での弱さが露呈してしまい、晴れの舞台での低迷の連続でした。今後は、国体選手を通じて、安定した力量を発揮していただき、男子選手の大活躍へと繋げて欲しいものです。

さて、中学生につきましては、まず底辺の拡大策について、各支部を中心に検討ください。各道場での教室等を通じて、中学生を育成していただき、中学生大会の参加者増加と、競技力の向上に向けていただきたく思います。出来るだけ早い取り組みにより、2年後、3年後の中学生の活躍が期待されると同時に、県内弓道のより発展にも繋がることと思ひます。

高校の教員の立場で、弓道連盟会員の皆様にお願ひします。現在も、以前同様に、数多くの高校生が弓道に取り組んでいます。高校生の大会は、成績がすべてですが、私は弓術大会には、したくないです。高校生の現場でも、弓道に対して、しっかりと取り組んでいくように、指導していきませんが、ぜひ段級審査等を通じて、高校生に「道」の部分をしつかり教えていただき、一人でも多くの高校生に、段位取得の喜びを与えてやってください。今後ともよろしくお願ひします。

退任にあたり

前理事長 櫻井 耕三

平成12年に理事を引き受け、13年に故古澤先生が会長に就任された時に理事長を引き受けて6年間、役員の方始め、会員の皆様のご協力で何とか過ごすことができましたことに厚く御礼申し上げます。

昨年飯田市で第27回北信越国体が開催され、村松支部長先生はじめ、飯伊支部の皆様のご協力により、無事終了できました。

長野県の成績は皆様ご承知のとおり少年女子が本国体の出場権を得ました。「のじぎく兵庫国体」では、近似的優勝3位の好成績を上げてくれました。この結果は、選手の努力はもとより、山川先生、外園先生はじめ、強化部の先生方のご尽力の賜と思ひます。故古澤先生がご在命であったならと残念でなりません。

この度理事長を退任するにあたり、山川先生始め、役員の方始め、会員の皆様から賜りましたご厚情に厚く感謝を申し上げます。

最後に長野県弓道連盟の益々のご発展を祈念し、退任の挨拶と致します。

連載⑤

私の歩んだ道
大久保秀雄

職場には弓道をやっていた先輩が5、6人おり、いつも弓の話を中心に話が弾んでいたが、いつしか話だけではなく、「みんなでやるわけではないか」ということになり先輩が上司に「弓道場を造ってくれないか」と交渉してくれた。

すると、特別な計らいで、工機部の片隅に2人並んで矢を射ることができ、2人立ちの道場を造ってもらえたのだ。

さっそく、他に同好者を募集すると、16人のメンバーが集まったので、終業後1時間ほど毎日練習するようになった。

そして、私は相変わらず毎朝の練習も欠かしてはいなかった。

私の1日は、朝7時に緑町の家を出て駆け足で県庁前を通り抜け、岡田の武徳殿に向かうことから始まった。そして、そこで30分ほど練習した後、今度は栗田の職場まで、20分ほどの道のりをまた駆け足で急いだものだった。

しばらくすると、この早朝練習のことを聞きつけた職場の弓道仲間が、一人、また一人と加わり、いつしか4人で練習するようになった。

その中には、後の東京オリリンピックの際日本武道館で行われた「デモンストラーション」弓道の日本代表となった、堅岩積子先輩もいた。

実質、弓を練習できる時間は少なかった

が、あつちへこつちへと駆け足で移動することで足腰を鍛えることが主眼だったのだから苦にはならなかった。しばらくすると他の仲間も私に倣って駆け足で道場にやって来るようになり、練習が終わると全員で駆け足で職場に向かったものだった。

気の合った仲間と共に練習することは本当に張り合いで、合間に交わすよもやま話がまた楽しかった。

この練習はそれから2年半ほど、私が出征するまでの間毎日続けられた。職場環境のみならず、素晴らしい弓仲間にも恵まれたことをしみじみ感謝している。



昭和18年 武徳殿での早朝練習風景 (中央が堅岩さん、左が私)

ミッドウェー海戦が行われた昭和17(1942)年、私は徴兵検査を受けて乙種合格となった。眼鏡をかけている者はいくら健康でも甲ではなく乙だったのだ。

そして翌年4月から、金沢の第52連隊に現役兵として入営することが決まった。

入隊の折に貸与されたのは夏服だった。まだ4月だったので、なんだか不思議だなあ」と思ったが、後に南方へ行く兵隊には夏服が、北方へ行く兵隊には冬服が貸与さ

れたことを知った。なるほど私の出征先は仏印(現在のベトナム)だったわけだ。

やがて6月1日、私を含む1万人ほどの兵隊を船倉に詰め込んだ1万トンの貨物船が広島島の宇品港を出帆した。

結局18日かかってサイゴンに到着したが、よく耐えたものだった。

しばらく兵舎で休憩した後、上官から号令がかかった。せつけんと呼ぶのを待って舎前に集合!

何事かと思いつつ整理すると、突然空が真っ暗になり、大粒の雨が一気に降り出してきた。スコールだった。上官から「せつけんをつけて体を洗え!」という号令が飛んだ。なるほどこういうことだったのか。

スコールは毎日午後2時から3時に必ずやってきて、20・30分ほど大粒の雨を降らせてた。おかげで翌日もスコールのシャワーで体が洗え、実にさっぱり過ぎたものだった。

2日ほどでハノイに着き、出迎いのトラックの荷台に乗せられて駐屯地の小さな町バクニンに移送された。そこで3カ月間、自動車隊に編入されたのだ。

自動車隊で3カ月過ごした後、私は幹部候補生として21師団司令部の経理部勤務となった。

コメ、みそ、しょうゆ、軍服などを、どれだけ各部隊に配給したか伝票計算する仕事で、司令部が置かれたハノイの国立博物館が勤務地だった。

ある日、うどん、菓子類やたばこなどを販売していた司令部の酒保売店の倉庫で、私は偶然にも弓具を発見した。

弓、矢、つる、的など10人分ほどの道具

がちゃんとそろっていた。早速、係に頼んで借り、昼休みに経理部の横にあった土盛り防空壕(こうごう)に的を付け、矢を射てみた。

まさか、仏印に来てまで、弓の練習ができるなんて思っていなかったのうれしかった。

中国から転戦してきた部隊が使っていた弓具と聞いたこともあったが定かではなくどなたが所有していたものかまだにさぞだが、それからは休み時間など、暇を見つけては練習していた。

ある日、経理部長の大村敏風中佐がやって来て、珍しそうに見ていたかと思いつつ、私の弓の腕前を聞いてきた。当時四段だったのでそう答えると、感心したようにうなずき、「おれに教えてくれ」と言い出した。

こうして上官への弓の手ほどきが始まったのだが、驚いたことにしばらくすると、師団長の三国直富中将や兵器部長までが加わるようになった。

たまたま入隊前同じ職場に居た深井忠次さん(中野市)が司令部の営膳係勤務だったことが幸いして彼の協力を得て急遽2人立ちの射場が作られた。柱は孟宗竹、屋根は大きなニツバヤシの葉を並べたニツバぶき。なんと珍しい南国風の射場だったが、きちんと練習できる場ができてもううれしかった。

弓の手ほどきは、昭和19(1944)年の2月から10月の間、毎日任務終了後1時間ほど行ったが、恐らく全国探しても戦地で上官に弓を教えた者などいないと思う。

空襲には何度も遭遇したが、仏印は比較的穏やかな戦場だったので弓の練習もできたのだらう。

全日本弓道連盟評議員会報告

評議員 土川 俊市

全弓連では、3月に通常評議員会が5月に定時評議会(京都)が開かれ3月の通常評議員会は新年度の事業計画と予算の審議と決定が主議題で、5月の定時評議員会は前年度の事業報告と決算が主議題となります。

つきましては、平成18年度全弓連通常評議員会が3月11日に明治神宮の中央道場二階講堂で開催され外園公毅理事長と出席したので、その概要を報告いたします。

通常評議員会は評議員定足数108名中、本人出席80名、委任状24名で会議が成立したことを宣じ、鈴木会長の挨拶の後、中塚常務理事の進行で議事が進められました。

まず公益法人制度の改革の対応について、法改正により公益財団法人格は税制面等で優遇される一方で、より公益性が重視されることとなりました。

全弓連では以前から指導指摘のあった内部留保水準(高率すぎ)の改善などに取り組む必要もあり、各ブロックから選出する委員による検討委員会を

組織して対応する旨の方針説明があり了承されました。

この公益法人制度の改革は既に法人格を持つている地連にも影響することから全弓連の判断が注目されます。

国際弓道連盟設立記念大会について、賛助寄付金は延べ一、〇〇〇人から三、七五〇万円の寄付金があった旨の報告があり、頂いた芳名は機関紙「弓道」に順次掲載されます。

記念大会について、海外から三九六名、国内一般は一、六三七名の出場申込みがあります。

一方関係経費は予想外の出費もあつて当初計画予算より収支で一、五〇〇万円余の不足が見込まれ、その対応に奮闘中との報告であった。最終的には一般会計からの助成金の増額が賛助寄付金からの充当かについて協議していくこととなりました。

次に地連の表彰について、途中経過であるが3月の高校選抜の結果で確定し5月に表彰する。

現時点では、神奈川県と富山県が同点トップでつぎが愛知県である。

功労者の表彰について、叙勲対象者が六名と退任地連会長二名の表彰申請が地連から提出されていて、申請は3

月末締め切られるとの経過報告でした。

全弓連理事追加承認について、既に書面をもって全地連の承認を得ている古澤博理事逝去に伴う後任理事について、山川茂樹理事の就任が報告了承されました。

全日本弓道選手県大会(近的)、全日本弓道選手県大会(遠的)について、競技方法が見直され今年度から改正実施されます。

このことについては、別項でお知らせいたします。

次に平成19年度の事業計画・行事計画・分担金・収支予算書のそれぞれの議案が提案され、審議の結果全て原案どおり可決成立いたしました。

事業計画・行事計画では前年度の事業や行事が踏襲されていますが、国際弓道連盟設立記念行事が大きな事業であり、その他短期・中期・長期の新規事業として会員管理システムの改善や全弓連創立六〇周年事業、更には弓道博物館の設立などの諸計画事業が予定されておりあります。

分担金は総額八、〇三七、〇〇〇円でうち県弓連は二九三、〇〇〇円となっております。

全日本弓道選手権大会

近的・遠的

— 競技方法変更 —

全日本弓道選手県(近的)大会は、つぎのように変わります。

予選は1回のみで1手2回(計4回射)となり、合計得点上位20名が決勝に進出(ただし4射2中以上)します。決勝は各人1手5回(計10射)になり、表彰や参加人数などは変わりません。

長野県予選と北信越地区予選は従来どおりの方法で行われる予定です。

全日本弓道選手権(遠的)大会は、射距離60mのみとなります。

予選・決勝とも79cmの霞的的中制となります。予選6射(1回目2射、2回目4射)とし、上位24名が決勝進出、決勝は10射(1手の5回)となります。

表彰・参加資格・参加人数などは、変わりありません。

従って、県予選会は当初計画を変更して行うこととなり、競技部で検討され確定次第お知らせすることになっております。

北信越弓道連合会 会長・理事長会報告

平成19年2月24日 福井県福井市

県弓連出席者 会長 山川 茂樹

理事長 外園 公毅

18年度担当県長野県の山川会長が議長となり議事が進められました。

18年度の事業、決算報告、19年度の事業計画、収支予算案は変更、問題もなく全て了承されました。

北信越国体の立順及び全日本近代的選手権北信越ブロック予選会の内容が変わりましたので、関係事業部では確認して対応願います。

来年の平成20年第29回北信越国体から成年男子も北信越国体予選が行われることから、来年のリハーサルを兼ねて今年からオープン参加することになりました。

次に全日本選手権の北信越ブロック予選について、北陸3県から改正案が提案され審議の結果、19年度は次の要領で行われることになりました。

- 参加者・各県代表男女各5名
- 一次選考・各自1手2回(計4射)を行い、採点制により上位10

名を選出する。ただし、4

射2中以上を条件とする。

・審査の間合

○決勝・各自1手3回(計6射)を

行いの中制により上位3名

を選出する。但し同中の場

合は、第一次の上位点数者

を選出する。

・なお同位の場合は射詰によ

り決定。

・競技の間合

○その他・予選・決勝とも坐射により

5人立とする。

・予選の立順は抽選による。

・決勝の立順は予選の立順に

よる。

・男女各3名が代表として全

日本選手権大会に出場する。

第37回北信越選手権大会(11月11日

福井県立武道館)の立順は、抽選によ

り次のように決定されました。

○男子有段者の部 福井・富山・長野

・新潟・石川

○女子有段者の部 長野・富山・福井

・新潟・石川

○称号者の部 長野・石川・新潟・富

山・福井

以上

弓仲問紹介

志誠館弓道場(飯田市大瀬木)

加藤 修平

志誠館弓道場は、古川忠司錬士六段(飯田高校教諭)が個人で開設された弓道場である。市町村営弓道場を活動

基盤とする「公設民営」

団体が多いなか「民設民

営」で十年余を経た。因

みに「志誠」は館主がか

つて通った「志峰館」(駒

ヶ根市)と「誠道館」(岡

谷市)から各一字を拝領

した。

会員は、名誉顧問に濱

與祐範士九段、今村鯉三

郎範士八段、師範に山川

茂樹範士八段を戴き、門人会長松島貞

治教士六段のもと本年一月一日現在四

十五名である。当館会員の活動で特筆

すべきは、館主と塩沢忍五段(飯田市

立旭ヶ丘中教諭)、征矢憲錬士六段(岡

谷東高校校長)が平成九年全日本教職

員弓道選手権大会団体三位、その後古

川、塩沢両名に中田真也錬士六段(伊

那北高校教諭)により平成十二年、十

四年と全国制覇を遂げたこと。また藤

沢敏子錬士六段を中心とする女子会員

のまとまりの良さも付け加えたい。

当館事業は毎月第三土曜日午後七時

に開催する月例会が中心である。練習

では、道場は二十四時間使用可として

おり働く者にとつてはたい

へん有難い。流石に夜中過

ぎの利用はないが、勤務を

終えて夜の十一時、十二時

まで行射する姿が見られる。

さて、志誠館道場の良さ

は何かと考えると、館主の

幅広い人脈を基に全県・全

国に亘る弓士のネットワー

クと館主始め門人会幹部の

熱意により自由闊達な雰囲

気(オヤジギャグの増埒という声も)

の中で弓道と向き合えることであろ

う。年会費五千円で「民設民営」の運営は

決して楽ではないが、皆の心意気によ

り弓道界の梁山泊となるべく取り組ん

でいると

ころであ

る。



平成19年度秋田国体
長野県強化指定選手(少年男女)

○少年男子(26名)

- 南信地区 足助 元・新井士人・樋屋 俊・清水一宏(伊那弥生)・田中樹(飯田工業)・高島春樹(下伊那農)
- 小林元氣(赤穂)・佐藤駿一(東海大三)
- 飯田英心(伊那北)・山上すばる(阿南)
- 小林溪太(飯田)

- 中信地区 松井 剛・須澤良光(大町)・古谷祐一(木曾)・長田侑也(松本深志)・塚原拓也(豊科)・小林大志(塩尻志学)・鈴木智之(梓川)・前田洋介(県ヶ丘)・柴崎貴光(松本蟻ヶ)
- 東信地区 柳澤祐貴(上田)・山浦龍之介(上田千曲)・斉藤秀和(岩村田)
- 北信地区 安藤唯幸(長野)・金井雄一郎(長野日大)・鈴木貴行(中野実)
- 少年女子(26名)

- 南信地区 原 久可(飯田女子)・倉田奈都美・藤澤紫織(伊那北)・前川星花(諏訪二葉)・澤有香(東海大三)
- 池上香苗(赤穂)・酒井智代(飯田風越)
- 五味紗代子・有賀絵梨(下諏訪向陽)
- 中信地区 濱 咲子(松本深志)・小林由佳・徳嵩由樹(豊科)・高山春香(梓川)・大山 綾・大槻あゆみ(松本

- 蟻ヶ)・上垣外裕美・高山明香(美須々丘)・須山佳奈・塩尻志学(村田智栄穂高商業)・森田麻友美(松商学園)

- 東信地区 伊藤千鶴・高見沢麻衣(岩村田)・小林愛子(染谷丘)

- 北信地区 岸田美沙子・清水瑠美・神田穂奈美(長野商業)

第7回全国弓道遠の大会

1月14日/全弓連中央道場

県関係者の成績

一般男子の部

三位 田中 崇行(四段・信州大)

◆指導力向上指導者講習会受講者◆

2月3日/4日/全弓連中央道場

教士七段 外園公毅

教士六段 平野英孝

◆北信越地区地連幹部講習会受講者◆

3月17日/18日/上越市弓道場

教士七段 古澤金蔵

教士六段 新津一夫 北村弥昌

宮下重敬 宮坂博之

重田 功

私と弓道

八十才まだこれから!

上小支部 土屋 保男

弓を始めたのは昭和十六年、中等学校へ入学した時である。当時弓道は武術であった。弓矢は竹、的は星のであった。教本もなく先輩が総ての指導者であった。

しかし戦争で勤労働員となり、部活動は休部となってしまう。あれから五十年、再スタートしたのが七十四才、弓道教室に入る。

弓をひくことはさほど抵抗はなかったが、射技射法の基本の深さに驚く。一からの出直しであった。

以来五年余、



先輩の指導で楽しく通っている。昇段という目標もあるが今の私は「道場に立つこと自体」が生きて甲斐である。特にこの頃心していることの二、三を記しステップとしたい。

道場は練習を通して人格形成の場であることを自覚し、稽古前後の拝礼の拍手の音にまで気を使う。弓具は手入れを良くし丁寧扱う。数多く射るより、集中力を高め一矢といえども無駄な射はしない。矢取りは射た矢の位置・角度・矢勢を見届け、次の射の参考にする。射技射法は教本に学び、射法八節の各段階に気をつけ、特に「会から離れ」を重視する。稽古後は練習の成果を記録する。期日・的中率・例会成績など、細かいことも積重ねれば、いつか役に立つ。

弓道も、無常の世界がある。いつも同じようにやっても結果は同じではない。でも、努力すれば迷うに決ったもの。老後の私にとって弓道は、「心技体」すべての面で最適のスポーツであり「生きる糧」である。八十才になっても、まだ伸びる可能性のあることを夢みて。

第57回三十三間堂大の全国大会

1月15日/京都三十三間堂特設射場
県関係者の成績

- 成人男子 参加者830人
- 四位 伊藤 裕(参段・信州大)
- 成人女子 参加者948人
- 二位 春原聡美(参段・信州大)
- 五位 武田晴奈(参段・信州大)

第38回春季北信越学生弓道大会

3月8日~10日/長野運動公園弓道場
参加16大学

- (長野県は信州大学・長野大学参加)
- 大会成績
- 団体の部(男子)
- 信州大学A(志賀・平松・瀧上・三石・伊藤)
- 金沢工業B 新潟B
- 団体の部(女子)
- 福井A 新潟B 新潟A
- 個人の部(男子)
- 牧野武蔵(新潟大学)
- 川嶋道久(金沢大学)
- 伊藤 裕(信州大学)
- 平林拓哉(福井大学)
- 池田孝裕(新潟大学)
- 個人の部(女子)
- 春原聡美(信州大学)

第25回全国高等学校弓道選抜大会

平成19年3月17日~19日

- 杉浦早紀(信州大学)
- 若原詩織(富山大学)
- 入澤美希(長野大学)

茨城県武道館弓道場

- 男子個人予選(4射)
- 木下 祐太(阿智)
- 0中||落選
- 女子個人予選(4射)
- 須山 佳奈(塩尻志学館)
- 1中||落選
- 男子団体予選(12射)
- 豊科
- 柏原 遼 三宅 大介
- 塚原 拓也 竹内 壮志
- 1中||落選
- 女子団体予選(12射)
- 飯田女子
- 下沢 栄 平澤 萌
- 原 久可 熊谷 侑子
- 8中||決勝トーナメント進出
- 決勝トーナメント 1回戦(12射)
- 飯田女子5・6一戸(岩手)
- 敗退

地連幹部講習会に参加して

教士六段 新津 一夫

3月17日・18日に上越市弓道場において、地連幹部講習会が実施され、幸いにも参加することができ、まず県連に参加させていただいたことに感謝したいと思います。

講習会は両日とも雪の降る寒い二日間ではありましたが、講師・受講生とも真剣に取り組んだと感じました。冒頭主任講師の岡崎範士より「皆さんは各地連において重要なポストに居るのであるから、この講習会で得たものを、自ら実践して各地連のために努力していただきたい」との挨拶があり、身の引き締る思いでした。

一日目は岡崎先生の矢渡、一手行射のあと射礼の研修になりました。

立射礼・一ツ的射礼、特に立射礼については、講師より厳しい一言が「知っていると、出来るは別である」講習会のカリキュラムにあることを知っていたながら、勉強して来なかったのか「指導する立場にありながら、こんなことでは困る」とお叱りもありました。

また中間に、各講師から一時間ほど

の講話もあり、大変勉強になりました。二日目は高橋範士・本多範士の一ツ的射礼の後、射技の研修を終日行った。射技については、各自先生方に指摘を受け、熱心にご指導いただき、二日間の講習が終了した。

特に今回の講習会を受講して、一つには改めて受講にあたり、万全の準備と射礼の稽古をして臨むこと、二つには日頃道場での稽古では、基本的なこととは忠実にすることが重要であり、初心の人が見えていて正しく覚えられるようにすることが大切であることを強く感じながら、帰路に着いた。



2007.03.16

第3回中日本高等学校弓道大会

岡谷東トーナメント制の部準優勝

平成19年1月6日~8日

岐阜市 長良川弓道場

長野県からの参加校

男子 伊那弥生ヶ丘 下伊那農業

長野日大

女子 岡谷東 松本深志

伊那西

女子決勝トーナメント(12射)

1回戦

豊橋商業(愛知) 9・7伊那西

(敗退)

岡谷東9・6中京(岐阜)

2回戦

岡谷東8・7長岡(新潟)

準決勝

岡谷東8・6大阪福島女子(大阪府)

決勝

高田商業(奈良) 8・7岡谷東

成績

第1位 高田商業(奈良県)

第2位 岡谷東

齋藤琴美 原めぐみ

小松和佳子 藤森郁美

第3位 大阪福島女子(大阪府)

静岡商業(静岡県)

審査合格者

特別臨時審査

鎌士の部 12月24日 東京

宮坂 和久(中高)

井垣 貴夫(松本)

各地大会

結果報告

第14回中野冬季100射会

2月18日/中野市営弓道場

参加者41名

成績は次の通り

市川隆光(諏訪) 83中 中村宏

(諏訪) 79中 森山敏広(上田) 78

中 山崎哲(中高) 77中 麻田順道

(新潟) 71中

土屋義雄

講習会報告

女子講習会

3月18日

長野運動公園弓道場

講師 小池梨枝子教士

平井 礼子教士

受講者 44名

塩尻市営弓道場

講師 小池 房子教士
近藤 明子教士
受講者 51名

春季講習会

4月1日

東・北信地区第1班

東・北信地区第1班 講師 土川 俊市教士

東・北信地区第2班 受講者 29名

長野運動公園 講師 山川 茂樹教士

東・南信地区第1班 受講者 34名

飯島町営 講師 大久保秀雄教士

中・南信地区第2班 受講者 48名

塩尻市営 講師 宮澤 廣 範士

受講者 26名

塩尻市営 講師 宮澤 廣 範士

受講者 26名

投稿してほしいお願い

論文・随筆・弓矢にかかわる各地の祭事や神事・歴史などなんでも結構です。

○大会の写真も紙面を生かします。ぜひ傑作がありましたら送ってください。

○提言、ご意見、ご要望もお寄せください。検討のうえ積極的に紙面づくりに反映させていただきます。宛先は各地区選出の広報部員まで

編集後記

「弓道なごの」の創刊号から第20号までの発行、「長野県弓道連盟史」の発刊に中心として活躍された偉大な高井忠史広報部長が退任され、後任として広報部長を委嘱されました。

もとより浅学非才でありますうえに、文章を書くことも、読むことも苦手で、あり不安な気持ちでいっぱいでした。幸い創刊号から関わっていただいた部員さんを含め、力強いスタッフに支えられ21号を発刊することができました。今月号は、先輩の皆様の作り上げられたスタイルでのレイアウトをしました。会員の皆様のアドバイスをいただきました。読みやすく親しみやすい広報紙となるようスタッフ一同頑張りますので、温かいご指導をいただきますようお願い申し上げます。

(広報部スタッフ)

- 松澤 英男(南信)
- 百瀬 正(中信)
- 鷹野 良信(東信)
- 大山 孝吉(北信)
- 清水 和代(北信)
- 飯田 秀樹(ホームページ担当)
- 平野 英孝(部長)

(平野)